

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：エクセレント武蔵新城保育園	種別：認可保育園	
代表者氏名：大川 一則	定員（利用人数）： 30名	
所在地：〒211-0044 川崎市中原区新城 1-10-17JAセシサ新城4階		
TEL：044-755-5106	ホームページ： https://www.heartfukushi.or.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2017年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 ハート福祉会		
職員数	常勤職員： 14名 非常勤職員 1名	
専門職員	（専門職の名称） 名 看護師 1名	
	保育士 12名	
	栄養士 1名	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室2室・事務室・厨房・沐浴室・トイレ（子ども1室・大人1室）・休憩室	冷暖房設備完備・エレベーター・排煙窓・空気清浄機全室設置

③ 理念・基本方針

<p><基本方針></p> <p>・開園し5年が経過し、法人の教育・保育基本理念である「Jの育み」である「自由に（自発的に）」「自分らしく（自分の思いを表現する）」「自適に（安心感と信頼感をもって楽しく過ごす）」を基本に保育を展開し豊かな保育の実現に努める。</p> <p>法人研修や園外研修、キャリアアップ研修や園内研修を通して、人材育成に注力し、法人の保育理念の共有と保育士のキャリアアップを図っていく。また、保護者と日々の保育の様子や子どもの育ちを共有し、又保護者と園と一体となり、子どもの育ちを共有しながら保護者支援をしていくことに努める</p> <p>そして、猛威をふるっている新型コロナウイルス感染拡大の状況を注視し、引き続き衛生管理に努めていく。</p> <p><基本理念></p> <p>・子どもの人権の尊重及び子どもの権利保障・子どもの健全な発達保障</p>
--

④ 施設・事業所の特徴的な取組

<p>・定員30名の少人数ならではの温かで家庭的な雰囲気のある保育園で、0歳児～5歳児の子どもが楽しく過ごしている。</p> <p>・異年齢交流で過ごすことが日常的で、幼児クラスは小さい子のお世話をし、思いやりの気持ちが育っている。又乳児クラスは大きい子の真似や憧れを持つなどお互い良い刺激をたくさん感じることができる。</p> <p>・毎週金曜日は2歳児から5歳児までリズム遊びを4年間週1回継続的に行っている。子ども達も、週1回の金曜日を指折り数えて楽しみに待っている。音楽に合わせて体を動かしたり、体を動かす楽しさを感じるとともに体感や体のバランスを作ることができる。</p>

- ・外の自然に触れ、風を肌で感じ解放感を味わう事や、道端に咲いている草木の匂い、川の生き物、鳥の鳴き声など、あらゆる角度から五感が刺激され様々なことに興味や関心をもつきっかけを作ることができる散歩に力を入れている
- ・食育活動では、保育士と栄養士が連携し、食育年間計画をもとに「食べ物に興味関心を持ち、食事を喜んで食べる子ども・食の大切さを知る」を目指している。子ども達が栽培し収穫した野菜を調理してもらったり、夏野菜の栽培、種もみからのお米作り、調理保育を経験し、食への感謝を感じる保育に取り組んでいる。
- ・地域との連携では、同建物の1階にある金融機関、地元商店街、地区老人会との交流等を図っている。
- ・幼児クラスから、英語、ダンス、フットサルの習い事を行い、楽しみながら様々な人と関わる力を身につけることができるように取り組んでいる。（小杉保育園への異動はネコバスを利用している）

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月17日（契約日） ～ 2023年1月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長
家庭的な雰囲気の中できめ細かな保育を行っている
 定員数30名の少人数保育園のため、どの職員も子ども達一人ひとりの生活実態や発達の過程などの情報把握が可能で、加えて保育室は一望出来るため、必要な支援を必要な時に行うことが出来ている。結果子ども達は、安心感と信頼感を持って活動が出来ている。日常的に異年齢で過ごすことが多いため、小さいクラスの子は大きいクラスの子を憧れ、お手本として刺激を受けている。大きいクラスの子は、小さいクラスの子のお世話をすることで、思いやりの気持ちや自己の存在感を味わうことが出来ている。また、お手本となっていることを自覚することで基盤意識の芽生えが培われている。

地域と連携した保育を行っている
 商店街の一角にある建物の中にある保育園であることから、散歩に出るときには、地域の身近な人と日常の挨拶や言葉を交わすことで、人との関わり方に気づいたり、地域に親しみをもったりすることが出来ている。地域の老人会との交流や夏祭りの御神輿で商店街を練り歩く、JA職員をお芋パーティーに招待する、法人が運営する介護老人ホームとの交流など保育園以外の様々な人と触れ合い、共感し合うことで、人に関わることの楽しさや役に立つ喜びを味わい、支え合って生活するための自立心を育て、人と関わる力を養っている。

体験に基づいた食育活動を実践している
 子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や関わる人への感謝の気持ちが育つように、栄養士と連携して食育計画を作成し栽培活動を行っている。お米に関しては、5月上旬に種を家庭に持ち帰り、家族と一緒に「芽出し」を行い、10cm位になった頃から保育園で成長を見守り、収穫するといった活動を保護者との連携の下で取り組んでいる。夏野菜の栽培は、JAの協力を受けるなど、地域の機関との日常的な連携を図りながら食に関わる体験を積み、育てる大変さと、命を頂くことへの感謝の気持ちが育つような取り組みが行われている。

今後期待される点

園の現状にあったBCP（事業継続計画）策定が望まれる

園舎は金融機関ビルの4階に位置する立地環境であり、その立地条件から災害等の影響を把握し、各種リスクに必要な対策を講じている。同ビルの金融機関と連携し消防訓練を実施するなど、地域との連携協働体制を整え、毎月一回地震、火災、風水害を想定した総合訓練を実施している。また、災害が起きた場合の備蓄品などを整備している。適切にリスクマネジメントは行われているが、現状ではBCP（事業継続計画）が未策定となっている。令和6年4月からはBCP策定が法律上義務化されること、また実際に災害や深刻な事故等に遭遇した場合の保育の継続性などを勘案し、早急なBCP策定が望まれる。

標準的な実施方法についての見直しの工夫が求められる

保育についての標準的な実施方法については「福祉サービス」に明文化され、研修や指導を周知して保育実践が行われている。年1回の見直しをしているが、子どもの実情や保育環境により年度途中での評価・反省にともなう見直しを行うなど、臨機応変に対応できるような工夫が求められる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審するにあたり、職員一人ひとりが様々な視点から保育を振り返る良い機会になりました。又事務関係、マニュアル等の再確認や見直しをする機会にもなりました。

エクセレント武蔵新城保育園で大切にしてきた保育「家庭的な雰囲気の中での異年齢保育の関り」「散歩を通じた人との関わりや地域との交流」「体験に基づいた食育活動」を評価していただいたことが、職員の保育への自信と、保育の楽しさや、やる気につながる事が出来ました。今後、さらに職員間の連携を深め一人ひとりの子どもの育ちを支え、健やかな育ちにつながる保育に努めていきたいと思えます。

ご指導いただいた「BCP」の作成は、法人中心に作成を着手し完成いたしました。今回の第三者評価の受審にあたり、ご配慮いただきました評価機関の皆様、利用者アンケートにご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり